

人形浄瑠璃

# 文楽

文楽座命名一五〇年  
二〇二三年三月地方公演

「主催」公益財団法人文楽協会「後援」文化庁「助成」芸術文化振興基金・朝日新聞文化財団

## 昼の部

はなくらべしきのことぶき  
花競四季寿より

まんざいむすめ  
万歳・鷺娘

めいどひきやく  
冥途の飛脚

はおりお  
羽織落としの段

ふういんぎり  
封印切の段



## 夜の部

だんご  
団子

すがわらでんじゆてならいかのみ  
菅原伝授手習鑑

てらい  
寺入りの段

てらこや  
寺子屋の段



©青木信二

# 2023年 3月12日(日)

宇都宮市文化会館小ホール

昼の部……13:00 開場 13:30 開演  
夜の部……17:30 開場 18:00 開演  
入場料: 全席指定 昼の部 2,500円 (消費税込)  
夜の部 2,000円 (消費税込)

プレイガイド  
宇都宮市文化会館プレイガイド  
FKDショッピングプラザ宇都宮店(3F)  
CNプレイガイド <https://www.cnplayguide.com/>  
028-634-6244  
028-623-5269  
0570-08-9999

※未就学児入場不可  
※体調不良の方のご来場はお控えください。  
※検温・消毒等の感染症対策にご協力ください。また、ご来場の際は必ずマスクを着用ください。  
※本公演は全国公立文化施設協会のガイドラインに基づき、適切な感染拡大防止対策をとり実施いたします。また、今後の状況によっては、公演が中止または延期になる場合や、公演内容等に変更が出る場合がございますので、最新の情報をお確かめいただくようお願いいたします。  
※駐車台数には限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。  
※車いす席をご希望の方は、宇都宮市文化会館プレイガイドにお問い合わせください。  
主催: 公益財団法人うつのみや文化創造財団  
お問い合わせ: 宇都宮市文化会館 TEL028-636-2121

二〇二三年三月 地方公演 配役表

昼の部

解説 (あらすじを中心に)

竹本織太夫

花鏡四季寿より

整装部 藤原十郎

万歳

藤原教部 十郎

鷲娘

豊竹芳徳太夫
竹本咲太夫
野澤錦太夫
野澤勝平
澤二太郎

太才夫吉田玉臣
雛藏桐竹紋
(人形役)

近松門左衛門作 冥途の飛脚

羽織落し

鶴澤清太夫

龜屋忠兵衛吉田玉男
仲手大田大田
(人形役)

封印切

鶴澤千蔵太夫

花遊女梅川吉田和文
遊女千代蔵桐竹田紋吉生
遊女嶋瀬瀬田田玉鏡悠
(人形役)

囃子 翌月太明藏社中

夜の部

解説 (あらすじを中心に)

豊竹藤太夫

団子売

お白豊竹靖太夫
村造竹本南都太夫
野澤勝平
鶴澤錦太夫

団子売村造吉田文哉
団子売お白吉田清五郎

菅原伝授手習鑑

寺入りの段

豊竹陸太夫

菅秀才吉田田玉和
女だれくり吉田田玉和

寺子屋の段

前 豊竹藤太夫
竹澤團七夫

女房千代吉田田玉鏡二
子小太郎吉田田玉鏡二

後

鶴澤千蔵太夫

武源蔵吉田田玉文佐司馬
松台所吉田田玉文佐司馬
手習子吉田田玉文佐司馬
(人形役)

囃子 翌月太明藏社中

観劇当日に発熱や風邪のような症状のある方、体調のすぐれないお客様はご無理なさらず、来場をお控えください。観劇時は咳エチケットの励行ならびに、マスク着用・手指消毒(手洗い)の徹底などの感染症対策にご協力のほどお願い申し上げます。

花鏡四季寿より 万歳・鷲娘

文化6年(1809)、大坂の御霊社内の芝居で初演。春夏秋冬をテーマにした4つの舞踊からなる作品で、春の「万歳」と、冬の「鷲娘」をお届けいたします。

かつてお正月には欠かせない存在だった万歳十太夫と才藏が、独特の雰囲気を持ってにぎやかに新春を寿ぎ、「鷲娘」では、白鷲の精が、降り積もる雪に耐えながらも、やがて来る春の兆しを見つけ、喜びます。

冥途の飛脚 羽織落しと封印切の段

竹本座で正徳元年(1711)7月以前に初演されたと推定される、近松門左衛門の上中下三巻の世話物。飛脚屋龜屋の養子忠兵衛が金を横領、遊女を請け出して逃亡した事件をもとにしています。

忠兵衛は、愛する遊女梅川を他の客に身請けさせまいとして、友人八右衛門宛に届いた金を身請けの手付金に流用。八右衛門に事情を話し、謝罪しましたが、金はまだまだ足りません。

夜、急ぎの金300両を届けるため、武家屋敷へと向かう忠兵衛。ところが、いつの間にか、足は梅川のいる方へ。梅川に会いたい...いや、金を届けなければ...迷いに迷い、行ったり来たり。とうとう、羽織が脱げ落ちたのにも気づかずに、遊廓へ。

そこで立ち聞きしたのは、八右衛門の話。金に詰まった忠兵衛の行く末を案じ、廓から遠ざけようとしていたことはいえ、金の使い込みを暴露する、嘲罵にも似た言葉に、生来短気な忠兵衛は、逆上。梅川の嘆きも耳には入らず、金なら持っている、300両の封印を切つて、金を八右衛門に投げつけ、梅川を身請けして逃走...

忠兵衛が理性を失い破滅していくさま、人間の弱さ、愚かさをみごとに描いた近松の代表作の一つです。

団子売

江戸時代、白と杵を持ち歩き、団子を作つて売つていた団子売。一掴きごとに杵を振り、臼を叩いて、人集めをしたようで、その様子は、月の兎が団子を搗く、清元の歌舞伎舞踊「玉兎月影勝」(1820)に取り込まれました。これをもとに作られたのが、本作。若い夫婦が団子を搗き、踊りを披露するというもので、歌舞伎舞踊に逆輸入されています。

菅原伝授手習鑑 寺入りの段・寺子屋の段

平安時代、右大臣菅原道真は、左大臣藤原時平の讒言により、幸府に左遷され、失意のうちに亡くなり、怨霊に。雷神として恐れられ、その後は学問の神様として慕われ、今日に至っています。本作は、さまざまな天神(道真)伝承を取り入れて、竹田出雲(初代)並木千柳、三好松洛竹田小出雲二代出雲が合作し、人形浄瑠璃の黄金期、延享3年(1746)に竹本座で初演。浄瑠璃三大名作の一つに数えられる五段の時代物で、中でも最もよく上演される四段目をご覧ください。

道真の領内に住む百姓の三つ子の兄弟は、道真の計らいで、それぞれ、親王、時平、道真に告人として仕える身。時平の讒言で道真が失脚すると、時平を主人とする松王丸は道真方の親兄弟と敵対。

時平が命を狙う道真の若君を我が子と偽り匿うのは、道真の書の高弟で寺子屋を営む武部源藏。しかし、それも発覚。若君の首を討てと命じられ、進退きまらぬ源藏は、やむなく、その日に入門したばかりの男の子を身代わりに、首の検分役は、若君の顔をよく知る松王丸。その目をこまかせる可能性はほとんどなく、討ち死覚悟で首を差し出す源藏。と、意外にも、若君の首と松王丸が認め、うまくたませたとはいきや...

松王丸は、道真に恩を受けながら敵対せざるを得ない立場に苦悩、若君を救つて恩に報いようと、身代わりが必要となる源藏のもとへ我が子を...それまで悪人と思われて来た松王丸の本心、子を失った悲痛な思いが明かされます。

江戸時代に何万と存在し、道真が祀られていた寺子屋を舞台として、胸白さけの子供たちが笑いを誘う冒頭から、松王丸夫婦の悲しみが胸に迫る、名曲として知られる段切の「いろは送り」まで、緊迫感みなぎる屈指の人気演目です。

◎字彙表記がございます。席によっては字彙が見えにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。◎出演者の急病やその他やむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。あらかじめご了承ください。◎開演中の写真撮影・録音・録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。